

自然共生サイト「木曽馬の里地里山」 への取り組み

花野で草を刈る 木曽馬との暮らし

2019年8月 生草刈り 刈り立て

2025年11月13日 グリーン連合勉強会
ニゴと草カッパの会 田澤佳子

ニゴと草カッパの会（長野県木曽町）

ニゴ（干し草積み）、草カッパ（草刈り場）
木曽馬文化の継承と草原の再生を両輪

2018年 7月 開田高原採草地再生会議
フィールドの選定

2018年 9月 ニゴと草カッパの会 活動開始
草地の採草管理を始める。

2021～23年 紹介の冊子・映像を作成

2022年～ 認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン
の支援による ボランティア プログラム開始

2022年 草原の里100選「開田高原の半自然草原」選定

2025年 3月（2024年度後期）
自然共生サイト「木曽馬の里地里山」 認定

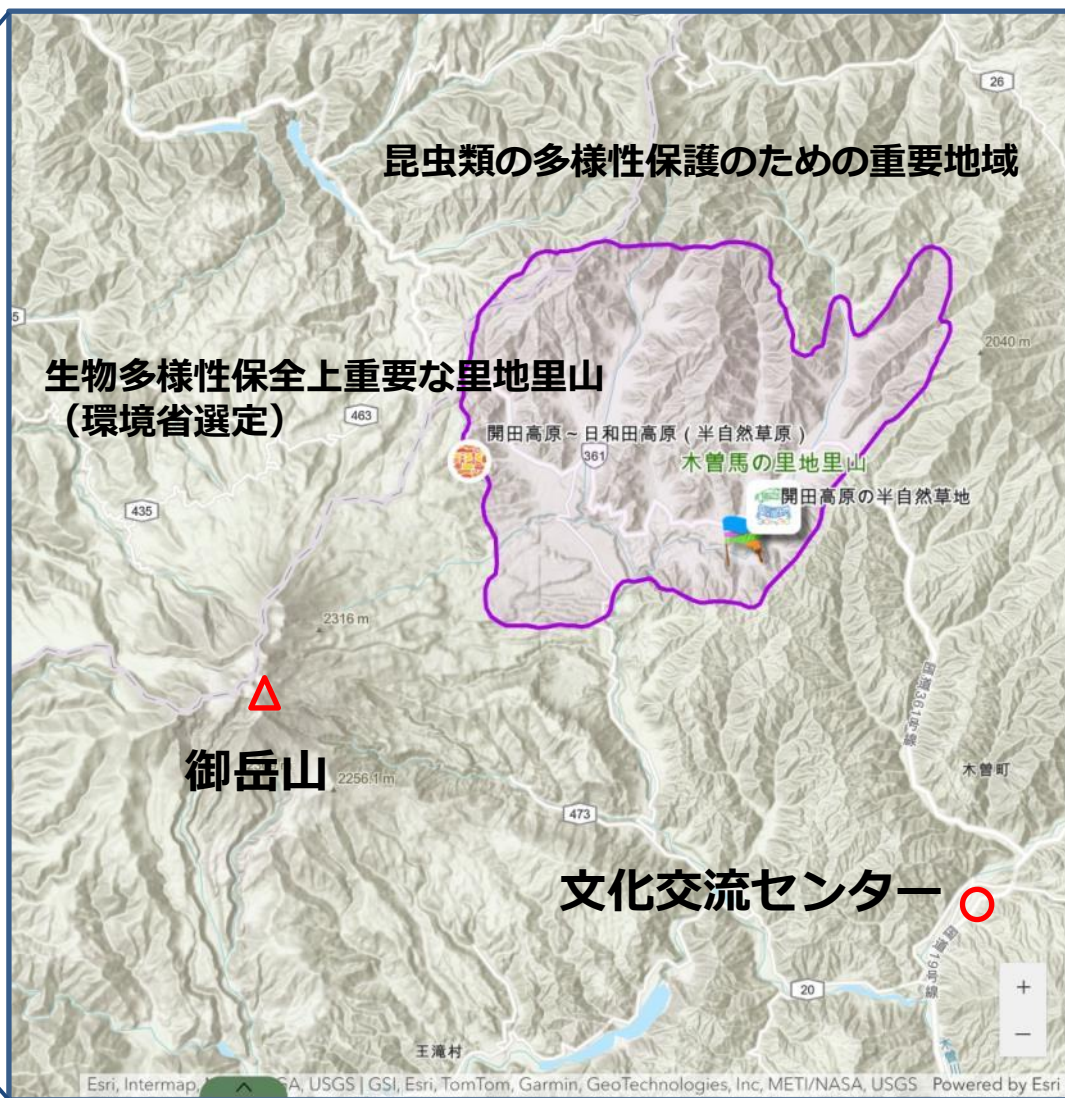
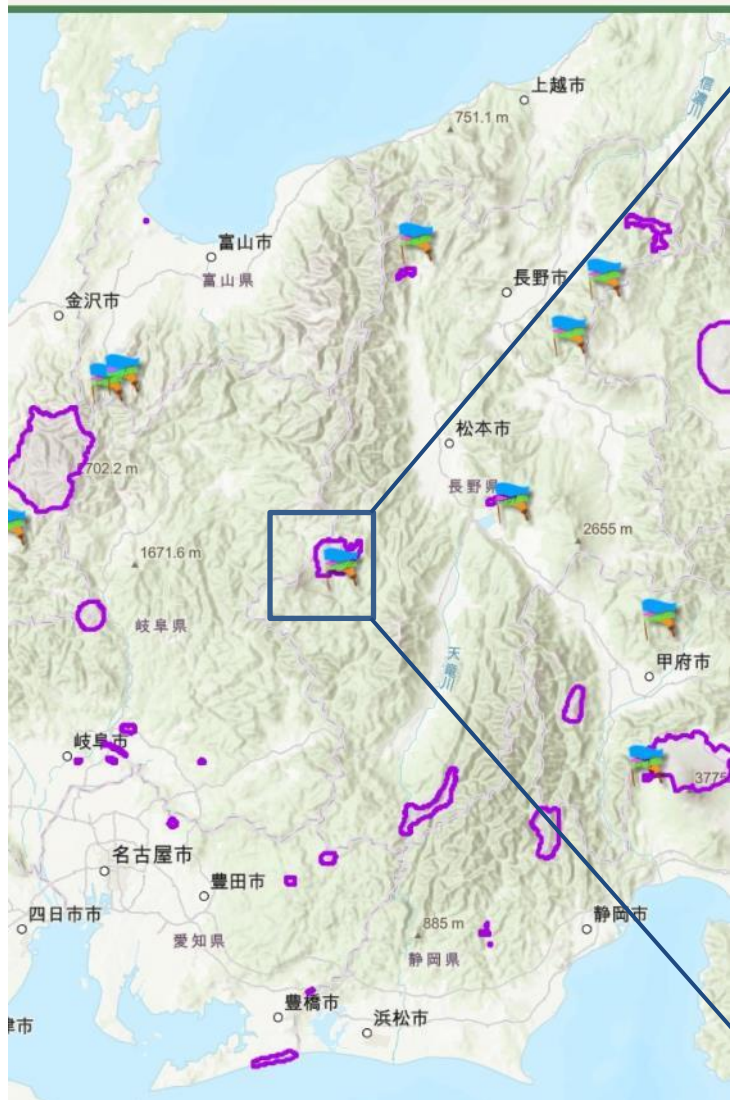




生物多様性「見える化」マップ

環境省 生物多様性「見える化」マップ

木曽町 開田高原 位置図



自然共生サイト「木曽馬の里地里山」への取り組み

1. 木曽馬の里地里山
2. 木曽馬文化と草原の再生
3. 学びの場として草地を利活用

1. 木曾馬の里地里山

木曾の草刈唄

「娘草刈り キキヨウは 残せ」

開田の草刈唄

「花が蝶々か 蝶々が花か」

吉野の草刈唄(木曾八景「風越山」)

チヨウが舞う 花野の草刈り を うたう

ススキ

ナデシコ

ヨツバ
ヒヨドリ

伝統的管理の草刈り場
に咲く秋の花々

オミナエシ

キキョウ

クズ

ハギ

馬屋で冬を過ごす馬

人と馬との
暮らし

有機物の循環

まやごえ

干草

作物

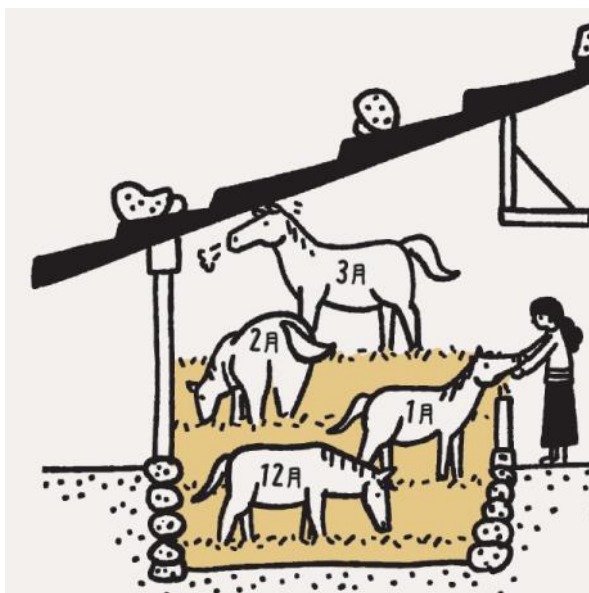




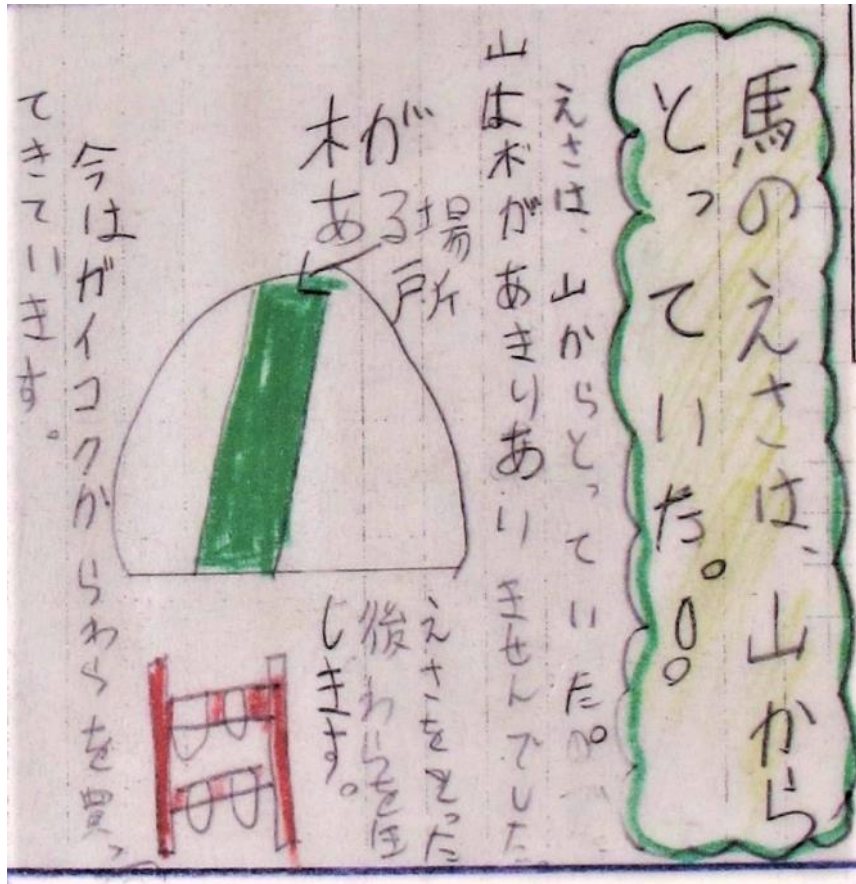
馬小屋のひみつ

なぜ馬小屋が 深いのか というと、
わらやふん をためて、ひりょう にするからです。

開田小学校児童制作の壁新聞「昔のくらし新聞」より



馬のえさは、山からとっていた！



山は木があまり
ありませんでした。

今はガイコクから
わらを買っています。

開田小学校児童制作の壁新聞
「昔のくらし新聞」より



ハチマキの草カッパ 里山の原風景

1973年



刈干が始まって、二、三日すると、はちまきの急斜面には見事な横縞模様が見られる。今年はその九月十日だった(昭和四十八年)。～略～ あちらこちらにあるカッパー帯にみられる風景である。

澤頭修自著
『御嶽の見える村』
「刈り干し」より

昭和48年(1973)
澤頭修自氏 撮影

昭和30年代から、モータリゼーションと化学肥料の普及により馬の役割が少なくなった。

1973年

2012年



馬から牛に

野草利用の木曽馬文化は続く

昭和48年（1973）
澤頭修自氏 撮影

野草で飼料を自給する農法

も廃れ、草地は森林化

2012年 開田高原の草地の生物多様性 調査研究

採草地の伝統的管理方法は高い植物多様性を維持

草地の管理変化は多様性減少と関係

「管理の変化に伴う植生高の変化（減少・増加）が、植物多様性減少と関係し」「伝統的な管理方法は、中程度の植生高・土壌pH環境をもたらすため高い植物多様性を維持できる」

永田優子：Traditional burning and mowing practices support high grassland plant diversity by providing intermediate levels of vegetation height and soil pH

2024年度 共通テスト「生物基礎」の問題となる

1. 木曽馬の里地里山 まとめ

人と木曽馬との暮らしの中で、知らず生物多様性が高い「花野」が維持されていた。

- 1) 人の「暮らし」と山野の地域資源の循環。
- 2) 木曽では「木曽馬」が介在し、草山があった。
- 3) 人と馬との暮らしによって「花野」の自然が保たれてきた。

その「花野」は、「木曽馬の里地里山」の自然
といえるのではないか

2. 木曽馬文化と草原の再生

2018年
二ゴと草カッパの会活動開始

2022年
「木曽馬文化と草原の再生」チーム
アースウォッチプログラム開始

ボランティア募集による関係人口増加

2018年 7月 開田高原採草地再生会議

研究者・馬飼い・自然愛好家・地域おこし協力隊・
木曽馬保存会 等
に声掛け

フィールドの選定

- ① 伝統的管理の採草地
(長野県希少野生動植物保護地にほぼ隣接)
- ② 再生草地 末川 (火入れのみ)
- ③ 再生草地 西野 (放棄地)

2018年 9月 ニゴと草カップの会 活動開始

①～③の草地の採草管理を始める

**2022年～ 認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンの支援
ボランティアプログラム開始**

2018年

昭和48年(1973)
澤頭修自氏 撮影



ニゴと草カッパの会活動開始

師匠に学ぶ干草づくり

伝統智の継承
原風景の再現



再生草地2カ所 に 伝統的管理を再導入

伝統的管理 隔年の火入れと採草

管理放棄草地→採草管理を加える。
→地区によって火入れが再開

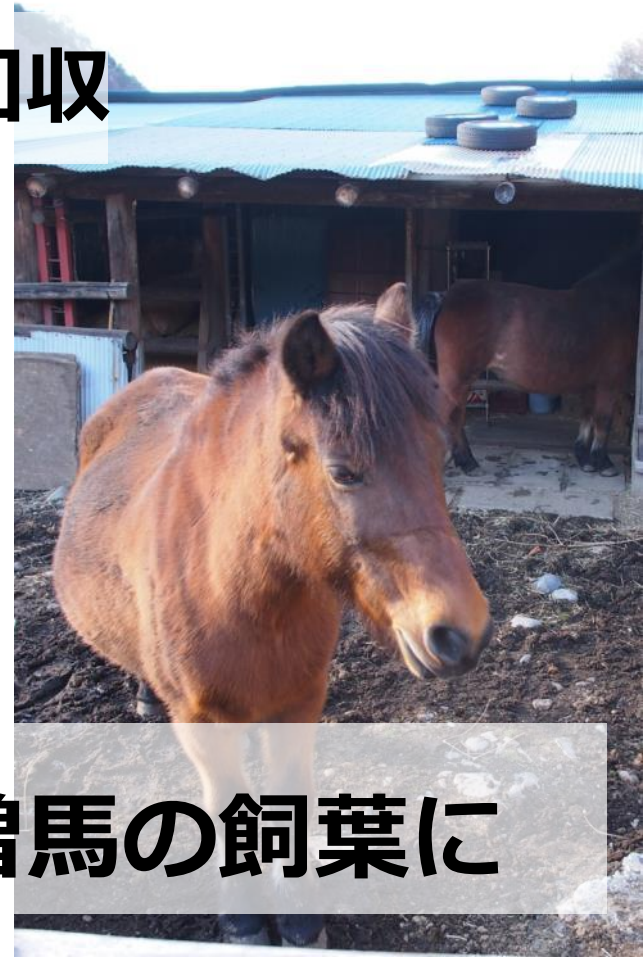
火入れのみの草地→採草管理を隔年で加える



来春に火入れ

秋に草刈り（採草）

積雪前 干し草の回収



木曽馬の飼葉に



野草利用の 木曽馬文化の継承



採草地の生物多様性



野草を食べない馬

木曽馬の保護育成施設へ

野草を食べる馬



2022年 アースウォッチプログラム 「木曽馬文化と草原の再生」開始

チーム結成 研究者（草地・木曽馬）、アースウォッチ、ニゴ会
ボランティアを地域内外に募る



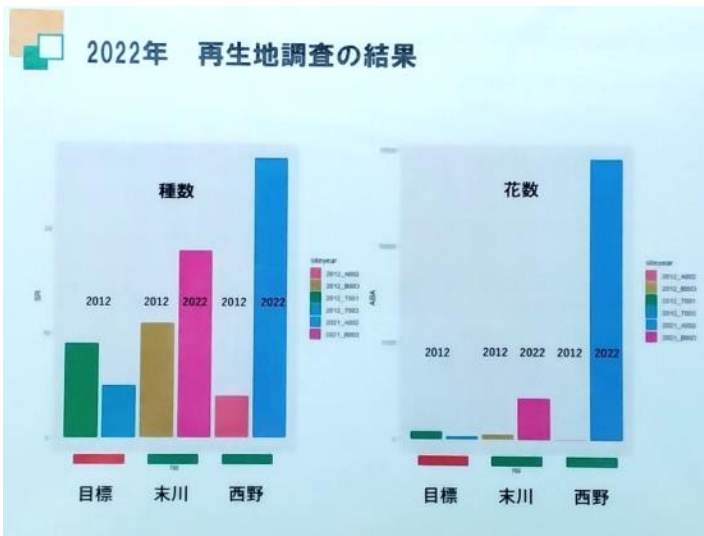
2024年9月 採草体験(草刈・馬への給餌・干草づくり)

研究者（草地・木曽馬） によるレクチャー



植物の種類と花の数を調査

2022年6月、9月 2023年9月
再生草地
生物多様性の回復を確認
(2012年神戸大調査と比較)



野草利用の木曽馬文化体験

2024年9月、2025年7月、9月

草刈・馬への給餌・干草づくり

木曽馬の歴史・文化を知る
刈った生草を木曽馬に



2024年7月 コヒョウモンモドキ とクガイソウの調査を開始



2023年までの調査結果
再生草地の多様性の回復
クガイソウも増えている

2023年1月
コヒョウモンモドキ
種の保存法
希少野生動植物種に指定

→**再生草地の次の指標**
コヒョウモンモドキの生息地
を目指す

3. 学びの場として草地を利活用

アースウォッチ 市民ボランティアプログラム

- ① 関係人口を増やす
- ② 草地の保全とモニタリング
- ③ 木曽馬文化へのアプローチ

手法を積み上げる

木曽馬と人と草カッパのつながり

少し昔のこと、馬は人のために働き、馬の厩肥(まやごえ)は田畑の実りを豊かにしました。人は馬のために草を刈って馬の世話をしました。飼葉(かいば)や厩肥にたくさんの草が必要だったので、山にはたくさんの草刈り場(草カッパ)がありました。草カッパには野草の花が咲き、人と馬との生活と、草山の自然は、ぐるっとつながっていました。今では木曽馬も草カッパも少なくなりましたが、まわりの自然とつながった人と馬との暮らしの知恵に、これからの暮らしのヒントがあるかもしれません。



翌春の野焼き

干草をつくると花が咲く?!

干草を採る草刈り場は、四季折々の山野草や、キキョウ・オミナエシ・ナデシコなどの秋草の花が咲く花野でもありました。良い飼葉をとるために、1年ごとに半分草を刈りとり、半分は野焼きをすることで、そうした花々が咲く草地になることが最近の研究でわかってきました。

木曽馬の飼葉は山からとっていた!

山間地の木曽では、少ない平地は田畑に、放牧地や草刈り場は主に山にありました。昭和30年代初期、旧開田村で飼われていた馬は687頭、草地の面積は5,000ヘクタール※でした。(※「開田高原の昭和30年代の草地利用」/浦山佳恵)



海をこえてくる牧草

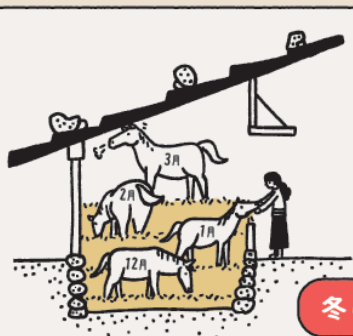
今は船で運ばれてきた外国の牧草で馬を育てることが多いです。手間も人手も少なくてすみずみ。

秋の干し草づくり

草カッパ

ニゴ

冬の馬屋



たくさんの干草

木曽馬は人と同じ屋根の下の馬屋で暮らしました。特に長い冬の間は、馬屋には朝夕たくさんの干草が投げ込まれ、新しい飼葉と敷きわらになりました。馬屋は厩肥を作るため深く掘り下げられていましたが、春になるころには馬の頭が天井につくほど厩肥がたまったそうです。

夏作物が育つ

草を刈って馬を飼う

春 まやごえを田畑に

はたらく馬

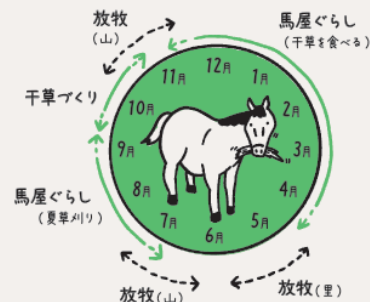
冬の大量の干草も、自分で山の草刈り場から家まで運びました。田畑も馬で耕し、耕運機やトラックなどを普通の農家でも使うようになるまで、馬は大きな力で人を助けました。

ぼったり草腹

木曽馬の昔ながらの飼葉は、洋牧草でなく日本に昔からある在来の野草です。ススキやカリヤスなどのカヤが主ですが、木曽馬はそういった山野草を消化できる大きい草腹を持っていました。

木曽馬と草の1年

馬とともに暮らすためには毎日の飼葉(草)が必要です。人は馬のために草を刈り、他の農作業がいしいときなどに放牧をしました。



草カッパの花を見つけよう！

木曾馬のための干草を刈った伝統的な採草地(草カッパ)は、春から晩秋にかけて様々な野草の花咲く花野です。植物の中には、山菜や薬草もあって馬だけでなく人も利用してきました。花を目印にいろんな植物を探してみよう！



- 1.キジムシロ 2.フデリンドウ 3.スミレとワラビ 4.アマドコロ 5.シロスミレ 6.ヒメイズミ 7.アヤメ 8.コバギボウシ
- 9.ウマノアシガタ 10.アザミ 11.カワラナデシコ 12.クガイソウ 13.オカトラノオ 14.キキョウ、オミナエシ、ススキ(盆花)
- 15.ユウスゲ 16.コオニユリ 17.ウツボグサ 18.クズ 19.マルバハギ 20.ヨツバヒヨドリ 21.ススキとワレモコウ
- 22.ツリガネニンジン 24.ハンゴンソウ 25.ペンケイソウ 26.マツムシソウ 27.ヤマラッキョウ 28.アカバナ
- 29.ゴマノハグサ 30.ゲンノショウコ 31.リンドウとニゴ 32.コシオガマ 33.ウメバチソウ 34.センブリ



草カッパ ウオッチ

2024年

5月

開田高原の昔ながらの草カッパ(草刈り場)。4月の野焼きのあと、芽吹いた草花ウォッチとワラビ採りを楽しめます。

日時:5月12日(日)

19日(日)

時間:10:00~12:00

集合場所:バス停 木曾馬の里入口



スケジュール

0. 早起きさんは木曾馬の里で子馬にあいさつ
 1. 集合。車で草カッパに移動。
 2. 植物観察とワラビとり。
 3. 現地解散
- ※時間のある方はカッパで昼食(各自持参)

午後は木曾馬文化ウォッチや子馬に会いに
(リクエストどうぞ!)

申込方法: 前日までに氏名と連絡先(電話番号)をお知らせください。

- ※1 保険加入と雨天等の連絡のため。
- ※2 中学生以下の方は保護者同伴)

参加費: 100円
(中学生以下50円
保険料と資料代など)

主催: ニゴと草カッパの会

連絡先: nigotokusakappa@gmail.com 090-5467-1746
(担当田澤※平日日中は折り返しお電話します。)

ト
ー
ネ
っ
こ
に
会
う

可視化のために各種選定に応募

2022年

未来に残したい草原の里100選

「開田高原の半自然草地」

(長野県の保護地を含む5.2ha)



2025年3月 (2024年度後期)

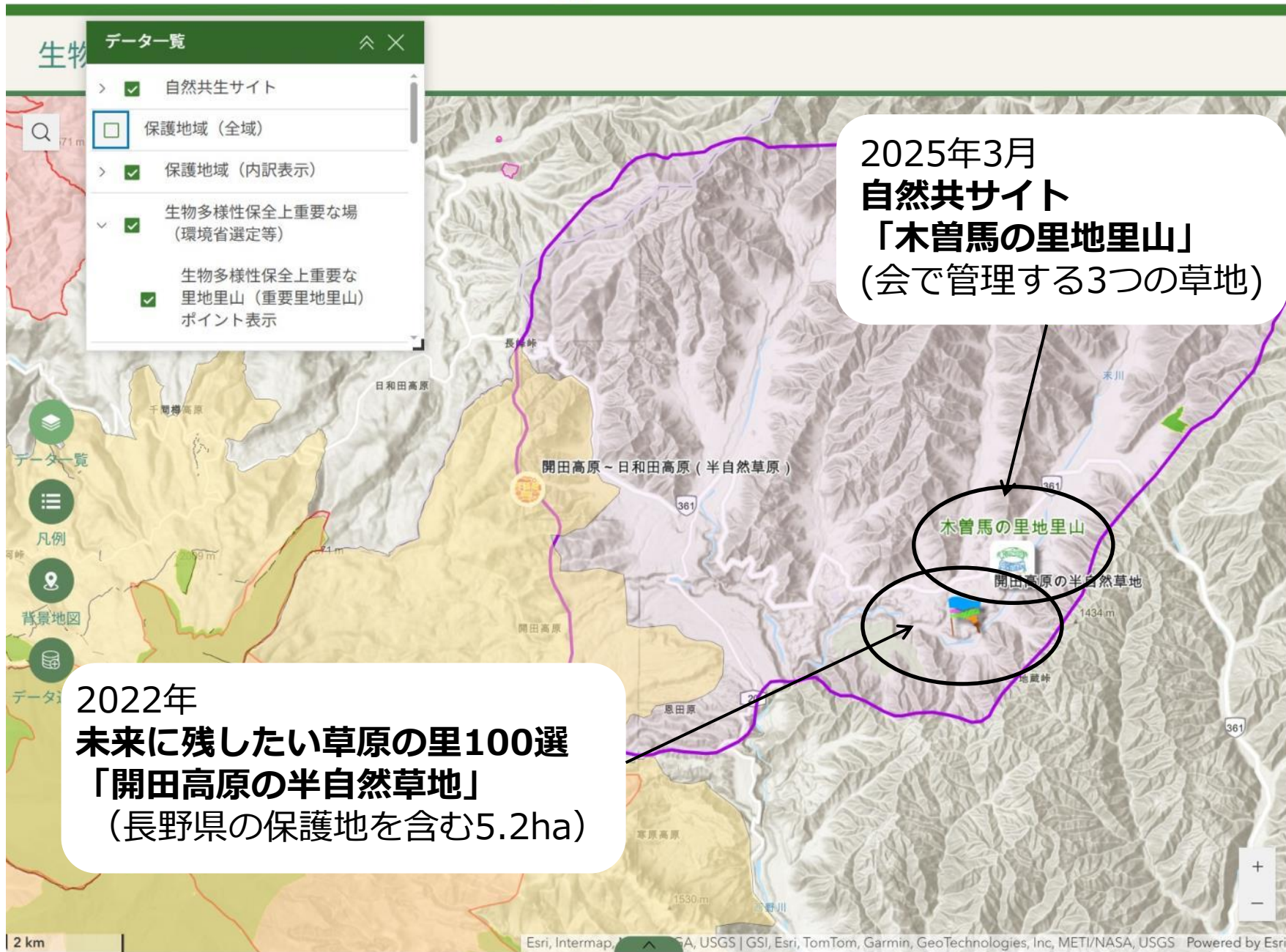
自然共サイト

「木曽馬の里地里山」(会管理草地)



国際データベースにOECDとして登録

Satoyama landscape of the Kiso horse



自然共生サイト「木曽馬の里地里山」
Satoyama landscape of the Kiso horse
代表ポイント: 末川大明の再生草地



2022年～
木曽町立開田小学校

児童の二ゴづくり体験
干草の回収

木曽馬保存会と協働



木曽馬文化の継承と草原の再生が両輪


2つが再びつながる

互いに価値を高め地域資源となる

里山の文化と自然、人と馬との暮らしを学ぶ場として

草地と馬を利活用

「木曽馬の里地里山」の「花野で草を刈る木曽馬との暮らし」



ご清聴ありがとうございます。

本活動は、
独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
木曽町共同募金 の支援を受けています。

